

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300656		
法人名	社会福祉法人日本ライン老人ホーム		
事業所名	日本ライングループホーム		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村受理日	平成22年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300656&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300656&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9人の小規模の利点を活かし、フットワーク良く、アットホームに、出来る限り自由に、家庭とかわらぬ生活を追及している。地域との交流では、切手収集ボランティアさんに場所を提供し、一緒に切手切りのボランティアをしたり、広告で作った箱を地域の幼稚園や保育園に提供したり、地域のフォークダンスサークルやふれあいサロンに参加している。毎月1回の外食または外出行事、毎月1回の買い物ツアー、毎週1回のヤクルト販売員の訪問を通じての選択の機会の確保にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りには、鶏小屋と園芸療法の花壇も兼ねた畑がある。職員一人ひとりの持ち味を引き出したチームワークで、利用者と職員が互いを尊重し合い、家族や地域とのつながりを持ちながら暮らしていけるよう、利用者の気持ちや意思に重きを置いたケアを実践している。老人クラブやいきいきサロン等、地域の活動にも参加している。隣接する特別養護老人ホームや養護老人ホームとの交流や協力もある。ホームの前は、地域の人が行き交う道路で、犬の散歩の途中に気軽に立ち寄り、利用者と一緒に楽しく交流している。利用者一人ひとりの心に目を向けることから始まるケアを常に検討し、実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念①家族とのつながりを大切にします。②地域とのつながりを大切にします。③愛を持って接します。という理念をかがげ、常に職員とご家族・地域との交流を大切にしている。	朝の申し送りの際、理念を唱和し、意識づけを行っている。家族と共に過ごす時間を多く持てる機会を作ったり、地域との交流が盛んになるよう努め、利用者が安心して楽しく暮らすため惜しみなく努力する中で、理念の共有と実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接施設の行事やクラブに参加している。また地域のふれあいサロンや老人会また町民まつりにも参加して地域の一員として交流している。	地域の一員として、老人クラブやいきいきサロンに参加したり、ホームで行われている廃物利用クラブ等に地域の人たちの参加を呼びかけ、共に楽しんでいる。隣接する施設とも、訪問を呼びかけ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	廃物利用クラブで作った作品を町民まつりでバザーに提供している。また、広告で作った箱を地域の幼稚園に届けている。また地域の認知症サポーター養成講座に管理者が講師として時々参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において毎回運営状況を報告し、そこで意見を伺いサービスの向上に繋げている。また、会議後にバーベキューや大衆劇団観劇などいろいろ楽しい催しも盛り込んで行っている。	2ヶ月に1回開催され、家族や民生委員、自治会長役場、地域包括支援センター等の参加がある。現状報告を行うとともに、家族共に温泉と観劇に出かけることが会議で提案され実践される等、参加者による率直な意見の一つひとつが、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい定期的に行き来する機会を作っている。また、月1回担当者や関係機関との連絡会議の開催を依頼している。また、待機者の有無などの情報を共有したりしている。	ホームの運営推進会議や地域包括支援センター主催の事業者連絡会議等において各種情報の共有、連携を図っている。緊急性のあるケースでも、会議を開催する等速やかな対応が可能となっており、町との協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないということを理解しており、玄関の施錠も夜間以外は行っていない、常に自由に玄関から外へ行き来出来るようにしている。	玄関は夜間のみ施錠しているが、昼間は自由に出入りできる。また、利用者への言葉掛け、対応等の目に見えない拘束についても、日々学び合い、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでいる。職員一同注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は適用する人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や入所時に不安のないよう十分に説明を行い、疑問点があればゆっくり丁寧に説明させて頂き、ご利用ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の生活の中で意見や要望などを伺い、家族には面会時にどんなことでもおっしゃって下さいと、常日頃話している。それらを施設長も参加する介護員会議の中で議題としている。	面会時には、職員に気軽に意見が言える雰囲気づくりに努めており、「職員の電話での対応について」「体重の増加について検討してほしい」等、気兼ねなく意見が出されている。聴き取った意見を真摯に受け止め、運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回介護員会議を開催し、意見や提案を聞いている。また、月1回法人全体の会議を開催し、その場においても介護員会議での意見を反映させている。	介護員会議は、意見を出しやすい環境になっており、常に利用者が楽しく健康的に暮らせるよう検討され、「排泄修了後は、職員が声を掛けるのではなく、利用者にもコールしてもらうこと」等、提案したことがケアに反映されており、職員の働く意欲にもつながっている。	利用者との直接的な係わりの中での職員の気づきやアイデアを運営に取り入れ、職員が意欲を持って認知症ケアに取り組んでいる現状の維持に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、非常勤から常勤職員への移行や、資格手当の増額による資格取得への意欲向上などの働く環境の整備、現場からの提案事項の迅速な許可などの現場尊重の姿勢、定期昇給の実践や介護職員処遇改善交付金の支給等給与面の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ法人が主催する、半年間1サイクルの新人研修や、1年間1サイクルの中堅者研修への参加や県主催の研修会、地域の研修会への参加の機会を確保し、OJTの実践を通じて、職員個々や事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ法人のグループホーム6事業所と2ヶ月に1回の定例会議を実施し、その際会議開催場所を各事業所持回りとし、職員間のみならず利用者との交流の機会も確保し、相互のネットワークの強化、互いの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もない方には、特に細心の注意を払い心配ごとや困ったことがないかどうか伺っている。また、何か要望がないかどうかお聞きし、安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など最初に分からないことや不安なことなどを伺い、安心して頂くように努めている。また、面会時にもその都度伺って、信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から相談を受けた時は、すぐに必要な対応をしている。また常にご利用者、ご家族の立場に立った近況の把握と傾聴に努めニーズを見極めるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として捉え、生活のいろいろな場面で意見を伺ったり教えて頂いたり、またお願いしたりと共に持ちつ持たれつ関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の対応などの時には、できるだけ日常の様子などをお伝えしたり、また利用者の家族への暖かい思いなどをお伝えしたりして、本人と家族との絆を大切に深めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や近所の人に遊びに来て頂いたり、こちらから出向いたりして関係維持に努めている。また、地域のふれあいサロンにも出掛けている。	家が近く、家族の都合に合わせて時々外泊したり、家族にはがきを書き、孫から返事が届いたり、入居前から行き来のあった店の人が訪問する等、家族や地域に暮らす馴染みの人達と継続して交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話がはずむように仲介したり、会話の苦手な人には、ボール遊びやカルタ取りなどを一緒に行い、お互いのコミュニケーションをとるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される時も、退所後の方向性を家族と共に考え、利用者が一番ふさわしい状況になるよう支援している。また、退所先の関係者には本人の状況や習慣、好みなどできる限り詳細な情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物の好きな人には、食材の買い物に同行して頂いたり、化粧品がほしいという人には一緒に出掛けたり、習字が習いたいという人には、本館の習字クラブへ出向いたり、またフォークダンスをしたいという人には社協の教室に参加したりしている。	職員は、認知症や認知症ケアについての学びを重ね、一人ひとりの利用者のペースに合わせて自己決定をしてもらったり、散歩や買い物等もあくまでも利用者の意向に合わせて実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活や歴史などを面会時などに家族から、会話の中でお聞きしたりまた読み取るように努め、生活の中に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	調理の手伝いの出来る方、広告折りの出来る方、食器洗いの出来る方、食器拭きの出来る方、洗濯干しの出来る方、洗濯畳みの出来る方、雑巾掛けの出来る方などその方の有する力を活かした日常生活を送っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を伺いながら、担当者と計画作成担当者で作成している。家族には面会時にその都度意見を伺い、本人家族の思いを尊重した計画の作成に努めている。	「家族に電話をしたい」「家へ泊まりに行きたい」等、利用者の「してほしい事」を家族に相談し、双方の意向を反映した利用者主体の介護計画が作成されており、定期・随時の見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や排泄、ケアの内容などケース記録に個別に記入している。また、職員間で情報共有するために職員間申し送りノートを使用しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたいという方のニーズに対応するために、希望の実現のため実家や家族に理解を求め、実際に実家へお連れしたりして柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防署の指導の元、地元自治会、企業との防災協定を締結し、総合防災訓練を行っている。また、民生委員やボランティア、保育園等と日頃より交流し豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を大切に、かかりつけ医への定期受診を支援している。しかし、何らかの理由で定期受診を事業所に依頼している人に関しては、事業所の協力医療機関へ職員が付き添い支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっており、家族とのつながりを大切にする上でも、受診には家族が同行することになっている。緊急時には職員が同行する等、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師との連携により日頃より医療面の指導助言を受け、急変時には看てもらい助言をもらうなど相談、助言の体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は定期的に面会に行き、ソーシャルワーカー、主治医、看護師長らとの連携を図り、スムーズに入退院が行えるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設においては、重度化した場合や終末期等については退所の対象となることを、入所時に説明し理解を得ている。退所の対象になった場合は、退所後のフォローを懇切丁寧に行っている。	一時的な車いす使用の場合を除き、常時車いす利用と終末期の場合は退居してもらうことを、入居前に説明し、承諾してもらっており、退居がスムーズにできるよう支援している。入院時には見舞いに行き、医師や家族と話し合い、重度化への方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習の参加や緊急マニュアルの常備、また利用者の急変や事故発生時に備えて、併設施設の看護師から応急手当の仕方や初期対応の仕方等指導助言を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施している。また、年に2回坂祝町消防署や行政、地域の人達と総合防災避難訓練を行い、地域との協力体制を築いている。また地元自治会、地元企業(パジェロ製造)との防災協定を締結している。	運営推進会議の中で、災害時の協力についても意見交換が行われ、定期的な避難訓練の実施の際、消防署・行政・地域との協力体制をも得て、消火・避難・防災等の訓練を実施している。3日分の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教師を長年しておられた方には誇りとプライドがあらわれるので、何かお願いする時でも言葉かけには気をつけている。それぞれの方の気持ちを考え対応している。	利用者への言葉掛けにはもちろんのこと、排泄支援の際には、交換したパットを新聞紙に包んで見えないようにする等、プライバシーに配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で「おやつはどちらがいいですか」とか、「お風呂に入られますか」など意思の表出を促すように働きかけている。意思表示のあまり出来ない人には、表情をみて本人の希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中でその人のペースを大切にしている。例えば、お風呂に入る時間や食事をしている時間や寝る時間などその人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれはその人の好みを考え支援している。美容院は移動美容室に依頼し好みのスタイルになるように支援している。馴染みの美容室を希望される人には、必要時対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共にスーパーへ食材を買いに行き、品定めをして頂き好きなものを購入している。また、調理の準備や盛り付け、片付け、食器洗い、食器拭きなど一緒に行っている。	特に何が食べたいのか、嫌いなものは何かを日々の係わりの中で把握し、メニューに反映させている。さんまを炭火で焼く等、季節の食材を取り込み、楽しく食事をする雰囲気づくりに努めている。食材の下準備、盛り付け、配膳、後片付け等、利用者の力を発揮できる役割を引き出し、職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量を把握し、必要に応じて栄養補助食品を摂って頂いたり水分摂取量にも注意している。また、併設の栄養士に毎月栄養チェックをしてもらい指導助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけをしている。自己にて出来ない人については、かならず付き添い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄のパターンや習慣を活かしてトイレでの排泄を支援している。失禁のある人には尿取りパットを使用し、排泄時間を見計らってトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握し、それに合わせて支援し、自立へ向けた取り組みを行い、紙パンツから布パンツへ移行したり、パットの使用数を減少させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人には、水分をできるだけ摂って頂けるように支援している。また、散歩に出たり身体を動かして頂くように働きかけたりして自然排便を促している。また頑固な便秘の人には、便秘薬を処方してもらい必要な時に使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴したいと希望する人には、そのように対応している。また、入る時間も夕食前までだが好きな時間やその人のタイミングをみて入ってもらっている。	毎日の入浴を希望する人には、希望どおり対応し、少なくとも2日に1回は入浴できるよう取り組んでいる。入浴剤を使って温泉気分を味わってもらったり、季節の菖蒲湯・ゆず湯等も利用者で大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で、その人が休息したい時に自由に居室で休んで頂いている。また、夜は遅くまでテレビを観たい人には希望の時間まで観て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解しており、毎食後薬を手渡し誤薬のないように努めている。またその人の状態の変化などみられるときは、すぐに医療機関に連絡し服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事の得意な人には、調理の準備や片付けまた洗濯干し、洗濯畳みなど役割として支援している。また、読書好きな人には図書館に行ったり、趣味のある方にはクラブに参加したりと支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はその人の希望にそって、行き場所を決め歩く時間も決めてもらっている。また、馴染みのお店で買い物がしたいという人には、そこへお連れしたりしている。また、日常的な食材の買い物も近くのスーパーと一緒に出掛けている。	気分転換のため、ホームの周辺を毎日散歩する人や、遠くまで散歩に出かける人も2名ほどいる。食材を職員と買いに行く人、池の鯉のエサ用のパンを週に1回買いに行く人等、一人ひとりの体調や希望に合わせた支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる人は家族の了承のもと所持金を少し持っておられる。そして買い物時自己にて支払われる。通常は家族から預かり金としていくらか預かっている。必要時はそこから使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも対応し、自分でかけられる人にはかけて頂いている。また、依頼された場合は本人に代わり連絡をしている。手紙においても、希望にそうように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂に花を飾ったりして、季節感を演出するように心掛けている。また、廊下には行事などの写真を貼り、見て楽しんで会話ができるよう空間作りに工夫している。	利用者や職員の要望に応じて購入した大画面のテレビがあり、食後にはテレビ前のソファに集まり、カラオケ等を楽しんでいる。食堂・居間・台所はつながっており、利用者に心を配りながら調理ができる。季節の花や飾り等もあり、明るく落ち着いた雰囲気づくりがされている。	浴室の脱衣場が洗濯用品等の保管場所になっており、入浴時の雰囲気づくりの妨げになっている。トイレには、感染予防処置用品が常備されている。いずれも、あからさまに目に入らないよう、設置場所等を工夫されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビはいつでも自由に好きな番組を見て頂いたり、ひとりになりたい人には居室でゆっくりして頂いたりしている。また、和室も自由に使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	読書好きな人は机を持って来られたり、習字の練習をしたい人は座卓を持って来られたり、また使い慣れた馴染みのリラックス用椅子を持って来られたりと居心地の良い居室作りを支援している。	利用者の使い慣れたタンスやイス、座卓等が持ち込まれ、居心地よく暮らせるよう配置している。居室でも趣味の活動ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの分からない人の為に張り紙をしたり、居室を間違える人のためにのれんを掛けたり、また杖歩行の人のために食堂の椅子に危険のないように杖置きを付けたったりして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		